

雪上訓練②：蓬新道

◆日程 2019年12月14日(土)～15日(日)

◆メンバー L：林、岡村、志村、日比野、西山、大塚、須田

雪山シーズンに備えての雪上訓練の第二弾。雪山が初めての人はいなかったが、トレースのないルートやラッセル歩行や埋設したビーコンを発見する訓練など、自分にとっては初めての内容もあり、冬合宿に繋がる充実した二日間であった。(記：大塚)

12月14日(土) 天候：晴のち雪

車で早朝に横浜を発ち、駐車場に到着後すぐに準備し、11時出発。暫くは林道歩き。天気良く暖かい、気持ちの良いスタートとなった。二つ目の堰堤で休憩。足元の雪が多くなってきた。1時間ほど歩いて再度休憩、ここで皆のビーコンの発信電波を林さんが受信確認してくれた。

渡渉地点である東俣出合近くから本格的登りが始まる。ラッセルに備えてワカンを着着。

途中からトレースが消え、ラッセルが始まる。林さんをはじめ、慣れた人達で先頭を交代しながら進む。次第に青空が消え、気が付くと雪が降り出している。



急な斜面のトラバース地点では積雪のため、ルートだけでなくロープまでが埋まりかけている。ピンクテープを頼りに慎重にルートを見極めながらラッセルする。荷物の重みもあり、なかなかペースが上がらない。後半は先頭の林さんの直後でラッセルのやり方と大変さを目の当たりに。2番目でも疲れるのだからいかに大変かが伝わる。

斜面が緩やかで広々としたスペースに到着。ここからはつづら折りの急登だ。既に16時近くとなり、日没まで30分しかない。雪明りで17時近くまで行動できるとしても、このコンディションでは今日の目的地である蓬峠への到達は厳しい。ここで幕営するか、他の適地を探すかで議論となった。林リーダーが上に偵察に出かけた。ほどなく戻り、この地点で幕営する判断を下した。目的地到達を諦めるかどうかの臨機応変な判断だ。これが翌日になって、稜線付近は風が強すぎ、決定タイミング、幕営地設定ともに最良の判断だったことが判明する。

テントでは志村さん差し入れのブランデーなどで乾杯。夕飯は西山さんによるお鍋。しめじ・舞茸や水菜、シーフード、お揚げなど豊富な材料でばっちり栄養補給だ。冷え切った体が温まる。デザートは林さんお手製のマスカットゼリー。口の中がサッパリしておいしい。ひとしきり盛り上がり、就寝は少し遅い21:30。(記：大塚)

CT：駐車場(安全登山広場) 11:00 - 堰堤 12:10 - 東俣沢出合 13:20/13:40
- 幕営地(1340m地点) 16:00

12月15日(日) 天候：曇り

4:30起床時点では心配したほど天気は悪くない。林さんが故郷石川県のソウルフード・とり野菜みそラーメンを作り始める。緑色のヘルメットが出てきたと思ったらキャベツ半玉！コッヘルに全部入れたらあふれるだろうとのことで、一部はざく切りにして日比野さんの塩昆布と和え前菜としみんなの間を二巡したころ、鍋ができあがった。お肉とキャベツたくさん、コシ

のある面にココのあるスプで元気いっぱいである。今日も歩くぞ〜。

アタック装備にワカン装着。つづら折りの登りをかわるがわる先頭に立ち進む。意外と早く「じゃ交代ー」の声。「もっと頑張らなきゃ」と思っても、パーティ全体の速度を考えるとバテないことが重要だ。樹林帯を抜け吹きさらしの斜面のトラバースでは堅い雪面が露出、怖さを感じる。平坦な場所を探しアイゼンに履き替える。稜線に出ると、体感で15-6m/sはあろうかという強風、積雪もところどころ膝までの深さになる。明らかな雪庇はなく歩くラインに迷う。うしろから「風強いから顔の凍傷に気を付けて。フードは風上側によせて。」と声がかかる。夢中になると無頓着になりがちだ。またラッセル交代時、「ナイスファイト」「お疲れ」と労ってもらえるとうれしいものだと実感した。蓬峠まで600m時点の分岐を踏み引き返す。途中、訓練適地を探すも傾斜など条件が厳しく、とにかく下る。テント撤収、再度ワカンに履き替える。前日通過した大トラバースはところどころトレースが不明瞭になっている。須田さんを先頭に沢の渡渉を繰り返す、凍った滑る石を雪が薄く覆い足を載せる場所が難しい。



林道終点の堰堤に着き河原への緩い斜面を利用してゾンデ（プローブ）とビーコン訓練。まずはみんなで歩き回って雪面を荒し雪崩痕に似せたデブリを作る。

【ゾンデ】ビーコン不所持の遭難者の捜索、横一列に並び「前へ」「刺せ」の掛け声のもと80cm四方の座標を網羅的にゾンデ捜索する方法をやってみる。ゾンデは最初から刺しにいくとどうしても力が入り斜めになってしまうので、垂直に落としてから力を入れることが重要。

【ビーコン】雪に埋まると窒息・低体温により15分程度から生存率が急激に低下することから、掘り出しに10分は使うことも考え5分以内に場所を特定しゾンデで当てることを目指す。

林Lが遭難者に見立てたビーコンを雪中に埋め、タイムを計測し捜索する。2本アンテナのOrtovox（2006年購入）は、目標に近づくとクロス法が必要、3本アンテナのMammutのBARRYVOX（2018年購入）はただ進むだけでよくやはり速い。最後に3人ずつのグループに分かれ、5人パーティの2人が埋まった想定で探す。要救助者が複数になると救命率の高さなど優先順位を考える必要があるが、いざ始まると余裕がなくなってしまう。

ラッセル訓練に雪崩捜索と、今回もたくさん学ぶことができた。個人的には下りが苦手ですずっと何とかしたいと思っていた。傾斜が怖いからと言って足元に視線を落とさず前方に向けると、姿勢が崩れず重心もコントロールできると体感できそれも大収穫だった。義雄さんには「沢もそう。いつも言ってるでしょ」と言われそう・・・（記：西山）



CT：行動開始7:10 - 分岐（引き返し）8:50 - テント撤収9:40/10:30
- 堰堤（雪崩訓練）13:15/15:10 - 駐車場16:00